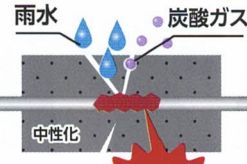


# “ひび割れ”は鉄筋コンクリートの劣化を促進します。

## ① 中性化

基礎コンクリートの劣化  
コンクリート内部の鉄筋は、強アルカリ性のコンクリートに覆われている間は錆びません。しかし、コンクリートは空気中の炭酸ガスの影響により、アルカリ性が徐々に失われていきます。この現象を「中性化」と呼びます。中性化が進行するとアルカリ性が失われ、内部の鉄筋が錆び始めます。もし「ひび割れ」があると、中性化と錆びは急速に進行します。

中性化によりコンクリートのアルカリ性が失われる



サビ発生

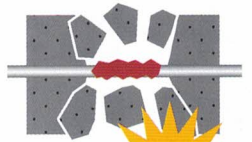


ひび割れにより刻々と迫る「爆裂」へのタイムリミット。

## ② 爆裂

基礎コンクリートの劣化  
内部の鉄筋が錆び始めると、錆により鉄筋が膨張し、コンクリートを内部から破壊してしまうため、最終的にコンクリート表面が剥がれ落ちてしまいます。これを「爆裂」と呼びます。

コンクリートの内部から破壊がはじまる

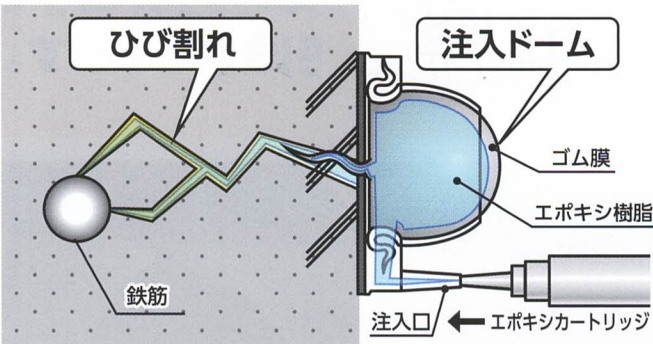


爆裂

# 「注入ドーム工法」で“ひび割れ”を完全に封じ込める！

## 注入ドーム工法の特徴

鉄筋コンクリートのひび割れ部分に、ゆっくりと時間をかけて、エポキシ樹脂を注入します。コンクリートの諸性能(構造耐力・耐久性・水密性・気密性)を回復します。



[鉄筋コンクリート断面図]

## POINT 1 注入ドーム工法は国の仕様に応じた安心のひび割れ補修工法です。



エポキシ樹脂を自動式低圧樹脂注入工法という国交省「建築改修工事共通仕様書」に標準仕様として採用されている信頼性の高い工法でひび割れに注入します。

## POINT 2 “世界遺産”原爆ドームの補修にも使用されています。



エポキシ樹脂は、1967年(50年以上前)に広島原爆ドームの保存工事(注入と接着)に使用されており、現在も健全な状態を維持しています。

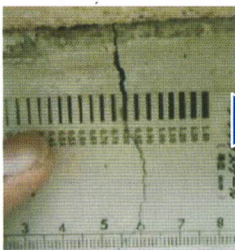


## 「注入ドーム工法」補修工事の流れ

施工日数:1~3日

エポキシ硬化目安  
夏場:中1日 / 冬場:中2日

住まいながらにできる工事です。



### ① ひび割れを計測

現状のひび割れの状態やサイズをチェックし、最適な注入剤を選択します。



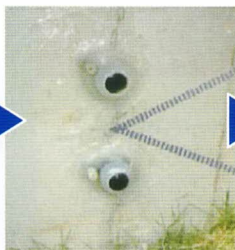
### ② 注入ドームを接着

注入ドームをひび割れにそって接着固定します。



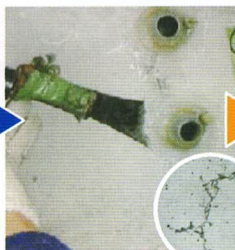
### ③ エポキシ樹脂を充填

エポキシ樹脂を注入ドーム内に充填。



### ④ ゴム膜による低圧注入

エポキシ樹脂が注入ドームのゴム膜の復元力で、ゆっくりと低圧で注入されていきます。



### ⑤ 注入ドームを除去

エポキシ硬化後、注入ドームとシール部を撤去します。



### ⑥ 封入完了!

施工部分を丁寧に整えて作業完了です。

※工事はひび割れの発生箇所や建物の構造により、基礎外周が床下にて行います。



## 資格者による施工を行います。

(一社)住宅基礎コンクリート保存技術普及協会が認定する「住宅基礎コンクリート保存技術士」の資格を持った確かな技術者が施工します。

お問い合わせ

販売代理店

環境機器株式会社  
Semco

販売元  
ビルシステム株式会社